

# 育てにくさを感じている親に対するペアレンティングの効果 (中間報告)

鳥取大学大学院医学系研究科 井上 菜穂  
鳥取大学大学院医学系研究科 井上 雅彦

## The effect of parenting to the parents who feel the difficulty of child care

Graduate School of Medical Sciences, Tottori University INOUE, Naho  
Graduate School of Medical Sciences, Tottori University INOUE, Masahiko

### 要 約

近年、診断を受けた発達障害児の親に対してのペアレント・トレーニングが広まってきている。しかし医療機関までつながっていない親の中にも、子育てに困難を抱えている親がたくさんいる現状がある。本研究では、地域の子育て支援拠点や幼稚園の未就園教室において、診断の有無に関わらず子どもの育てにくさに悩んでいる保護者を対象にペアレント・トレーニングに基づいたペアレンティングの講座をおこない、その効果について検討する。本稿では、研究の目的と方法と現在の進捗状況をまとめた。

**【キー・ワード】** 発達障害, 子育て, ペアレント・トレーニング, ペアレンティング

### Abstract

In recent years, parent training to the parents of the Developmental Disabilities children who received diagnosis is spreading. But, There are many parents who are holding difficulty in child-rearing also in the parents who are not connected to the medical institution. This study investigated the effect of parenting to the parents who feel the difficulty of child care. We introduced the background, purpose and method of the present study. Finally, we reported progress situation.

**【Key words】** special needs, interpersonal interaction, psychological intervention, cognitive behavioral therapy

### はじめに

発達障害児の支援体制においてはライフステージを通じた継続的な支援が重要であり、本人への直

接的支援に加えて、家族支援のプログラムが有効である(井上, 2010)。発達障害児への家族支援の1つとして、近年「ペアレント・トレーニング」が広まり、診断を受けた保護者においては子どもへの対応の仕方など学ぶことができる機会が増加してきた。ペアレント・トレーニングの研究ではさまざまな障害を対象とした研究、低年齢から思春期での保護者を対象とした研究などがすすめられ、ペアレント・トレーニングの効果も証明されている。

一方、保護者が診断を受けるまでには多くの葛藤があり(中田, 1995)、健診で指摘されたにも関わらず医療機関へつながっていない児や、健診は通過したものの保護者が育児に困難さを抱いているケースがあるのも現状である。発達障害児においては早期に診断をおこない支援を開始することの効果が指摘されてきているため(神尾, 2007-2010)、こういったケースに対しても早急に支援を開始することが必要である。

現代社会において、核家族が増え地域との関係が希薄化している現状などから、母親の子育てにおける孤立化がおこり、そのことで子育てへの不安や負担が増加している。そのため各幼稚園や保育園などでは未就園児の親子のための教室を開催している。また、厚生労働省は地域子育て支援拠点事業を実施し、「子育てひろば」などの子育て拠点が設置され、子育て講座が開催されているところもある。このような子育て支援の一環を利用して、「ペアレンティング(子育て)」の講座を実施し、診断をされていない児へも間接的に早期に支援をしていくことで、結果として母親のストレスや不安が軽減されたり、児の発達が促進されたりすることが期待される。また必要な場合には専門機関へつながりやすくなることも推測される。

以上のことから、本研究は育児に困難さを抱えている親や児が多くいると考えられる地域の子育てひろばや幼稚園の未就園クラスにおいて「育児教室」という名目のペアレンティングの講座をおこない、その効果を検討することを目的とする。

## 方法

### 1) 対象

対象は未就園の幼児をもつ親で、子育てに困難さを抱えている者を対象とする。参加募集にあたってはプログラムの内容等を記載したチラシを幼稚園・保育園・子育て支援センターを通して配布し、公募を行う予定である。

### 2) 倫理的配慮

研究に参加する保護者に対して書面・口頭説明によるインフォームドコンセントをおこない、同意書を得る。また本研究は鳥取大学医学部倫理委員会の承認を申請中である。

### 3) 実施期間および実施場所

鳥取県の私立A幼稚園と滋賀県の私立B幼稚園の2園の子育て教室を利用して実施する予定である。「子育て支援講座」として、1回2時間、全4回の実施をおこなう。

#### 4) プログラム

本研究のプログラムはペアレント・トレーニングのプログラムを参考に、その中でも低年齢の子どもにとりいれやすいものを中心に、4回にまとめたものを実施する。プログラムは各回ともに前半が講義、後半が演習という形でおこない、演習をおこなうことで実生活にとりいれやすいものにすることを予定している。

#### 5) 評価

プログラムの事前と事後において、講義を理解したかどうかを確認するために知識を問う質問紙、保護者の不安を測定する質問紙 (STAI)、子どもの育てにくさを実施する。また子どもの行動の変化の有無についての質問紙を保護者と保育士にもあわせて実施して、ペアレンティングの講座の効果について検証する。

### 引用文献

- Hyungin Choi, Tatsuhiisa Yamashita, Yoshihisa Wada, Jin Narumoto, Hiromi Nanri, Akihito Fujimori, Hatuka Yamamoto, Susumu Nishizawa, Daiki Masaki, and Kenji Fujui (2010) Factors associated with postpartum depression and abusive behavior in mothers with infants. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 64, 120-127.
- 井上雅彦 (2010) 二次障害を有する自閉症スペクトラム児に対する支援システム. *脳と発達* 42, 209-212.
- 神尾陽子 (2007-1010) ライフステージに応じた広汎性発達障害者に対する支援のあり方に関する研究 (厚生労働省 障害保健福祉総合研究事業)
- 中田洋二郎 (1995) : 親の障害の認識と受容に関する考察—受容の段階説と慢性的悲哀—. *早稲田心理学年報* 27. 83-92
- 中津郁子 (2007) : 子育て支援としての相談活動のあり方—保育所・幼稚園の保育者を対象にした質問紙調査から—, *小児保健研究*, 66(1), 46-53
- 根来あゆみ・山下光 (2004) : 軽度発達障害児の主観的育てにくさ感 母親への質問紙調査による検討, *発達*, 97, 13-18
- 山本理恵・神田直子 (2011) 子どもの特性ろ QOL 及び母親の子育て不安の関連に関する研究. *人間発達科学研究* 第 2 号, 29-41
- 渡邊茉奈美 (2011) 「育児不安」の再検討. *東京大学大学院教育学研究科紀要* 第 51 巻, 191 - 202

